

■肝斑の新治療法“レーザートーンング”

肝斑とは、一般的に 30－50代のアジア人の女性に多く見られるシミの一種で、両頬に対照性にできるのが特徴です。

原因は、女性ホルモンのアンバランスが関係しているといわれています。肝斑は他のシミと混在している場合が多く、見分けるのがむずかしいので、ただのシミだと思い込んでしまうこともあります。

治療は、トラネキサム酸やビタミンCなどの内服や外用、イオン導入などを長期にわたって継続する必要があり、難治性の肝斑の場合にはそれでも色素が残ってしまうことがありました。

これまで、肝斑にレーザー治療は禁忌とされてきましたが、その肝斑への画期的な治療法としてQスイッチYAGレーザー『メドライトC6』による“レーザートーンング”は非常に注目されています。

今迄、唯一残された分野が治療できることになるので、レーザーの器械が届くのが今から楽しみです。

平成 21 年 10 月分原稿

はらクリニック院長 原 徹